

株式会社CSSホールディングス
2022年9月期 第3四半期決算説明資料

2022年9月7日



証券コード：2304

目次

■ 2022-2024中期経営計画の進捗について

私たちの目指す姿 P 3

スチュワード事業の進捗 P 4

フードサービス事業の進捗 P 6

空間プロデュース事業の進捗 P 8

グループ連結見通し P10

■ 2022年9月期配当予想 P11

■ 連結 損益計算書 概要 P12

■ 連結 貸借対照表 P13

■ 人材開発：マインドセット育成 P14

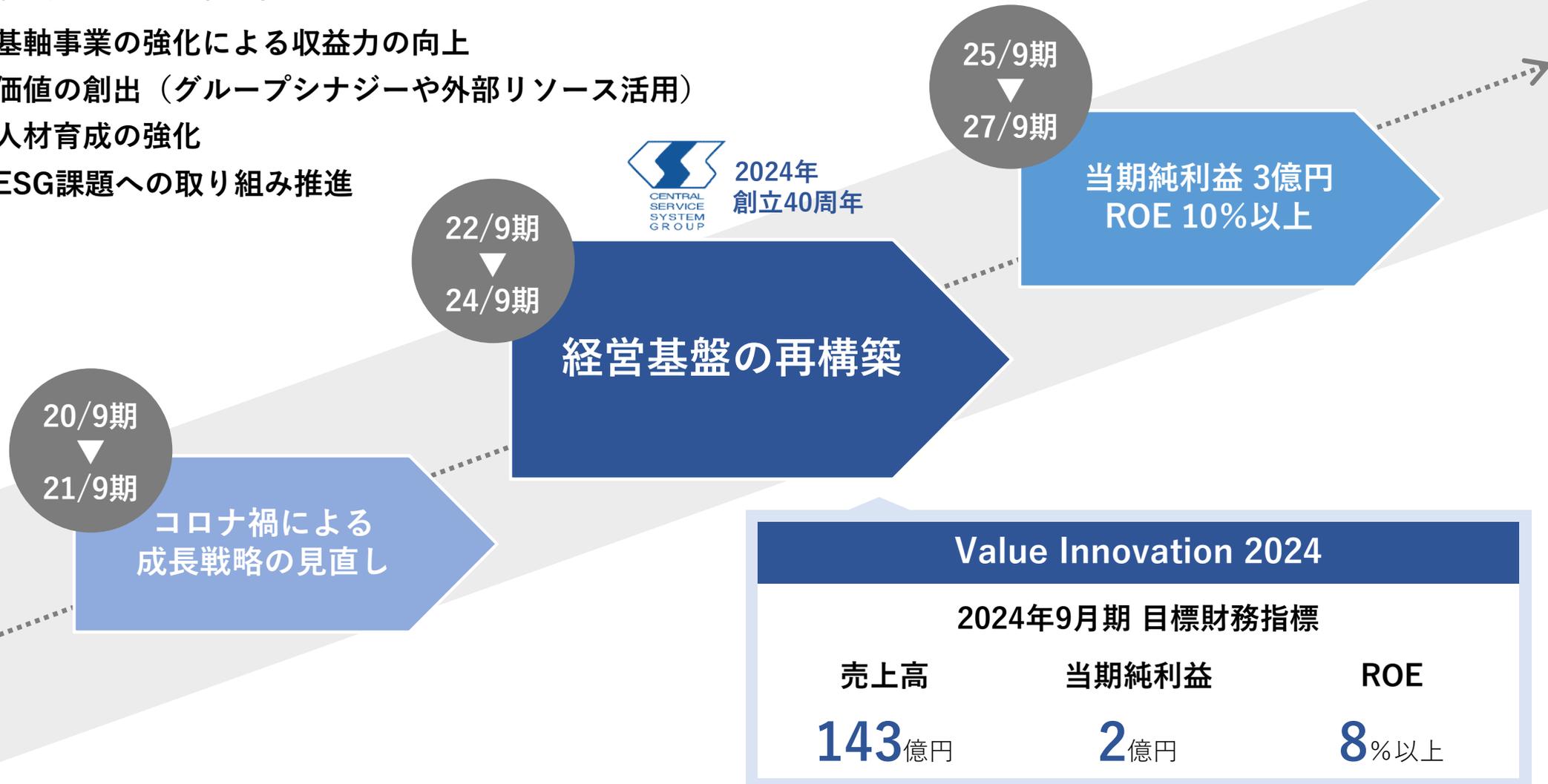
■ ESG課題への取り組み推進 P15

私たちの目指す姿

新型コロナや世界情勢に端を発した外部環境の劇的な変化の中、
FY22-24中期経営計画は以下のフォーカスポイントでスタートした

目標達成に向けた取り組み

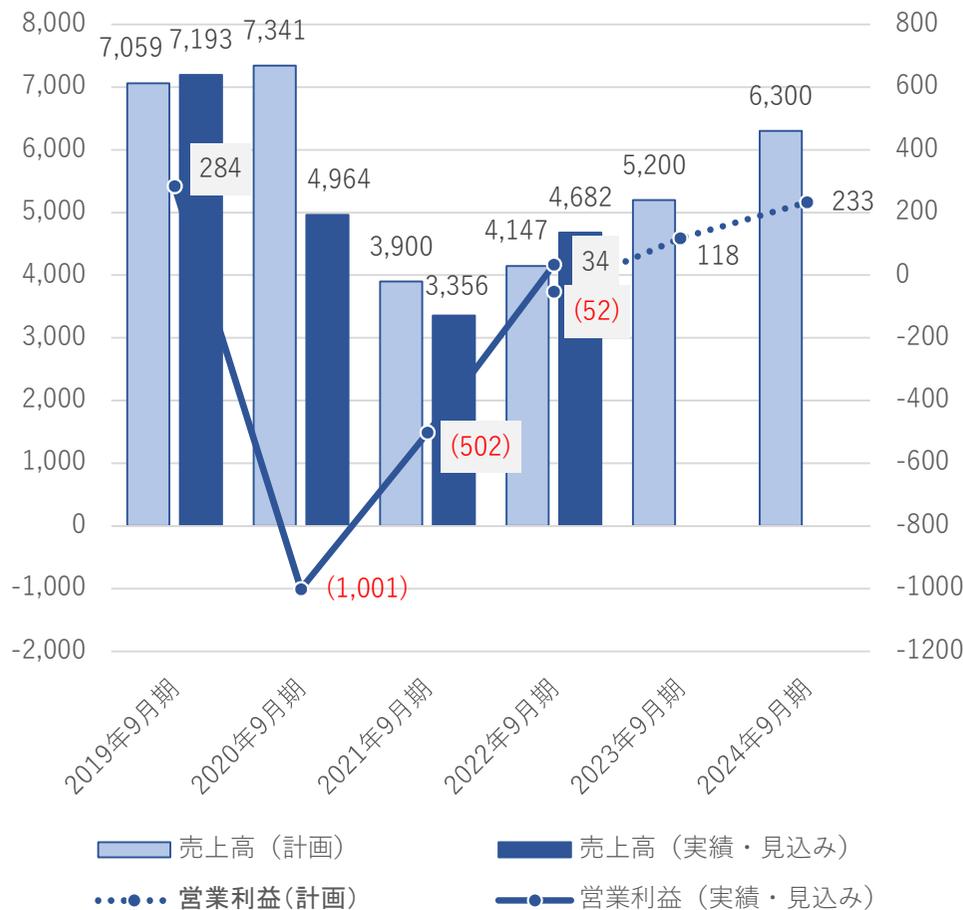
- ▶ 基軸事業の強化による収益力の向上
- ▶ 価値の創出（グループシナジーや外部リソース活用）
- ▶ 人材育成の強化
- ▶ ESG課題への取り組み推進



スチュワード事業の進捗

計画を上回り、対前年増収増益着地の見通し
売上／利益計画を上方修正、コロナ前水準へ

予実推移（単位：百万円）



市場環境の変化

- レストラン、ホテル宿泊、婚礼、アミューズメントパークなどの**需要が復調**、宴会需要も徐々に回復
- 需要の回復に伴って、コロナ禍でクライアント**内製化**されていた**業務の委託切替ニーズ急増**
- 需要の繁閑を吸収するポートフォリオとして取り組んでいる**清掃事業も引き合いが多い**

取り組み状況

- 半年ほど先までの新規開業がスケジュールされており、**業績は堅調に推移**する見込み
- 労働生産性およびコンプライアンスへ高い意識を保ち、**収益マネジメントの精度維持**
- 社員およびパート・アルバイト従業員の**採用活動は外部リソースのサポートで強化**、併せて**リテンション施策を展開**、清掃事業は**外部人財開発部を組織化**
- 清掃事業**は外部リソースと連携しつつ収益性を注視して展開、スチュワード業務部と並列して**組織化**
- ニーズの広がりに対して**中長期マーケティングを継続**

強みを活かしてバランス良く新規開業事業所を開拓

下半期累計（8末時点）
単位：事業所

スチュワード業務

清掃等業務

計

ホテル領域

6

3

9

医療等新領域

3

-

3

計

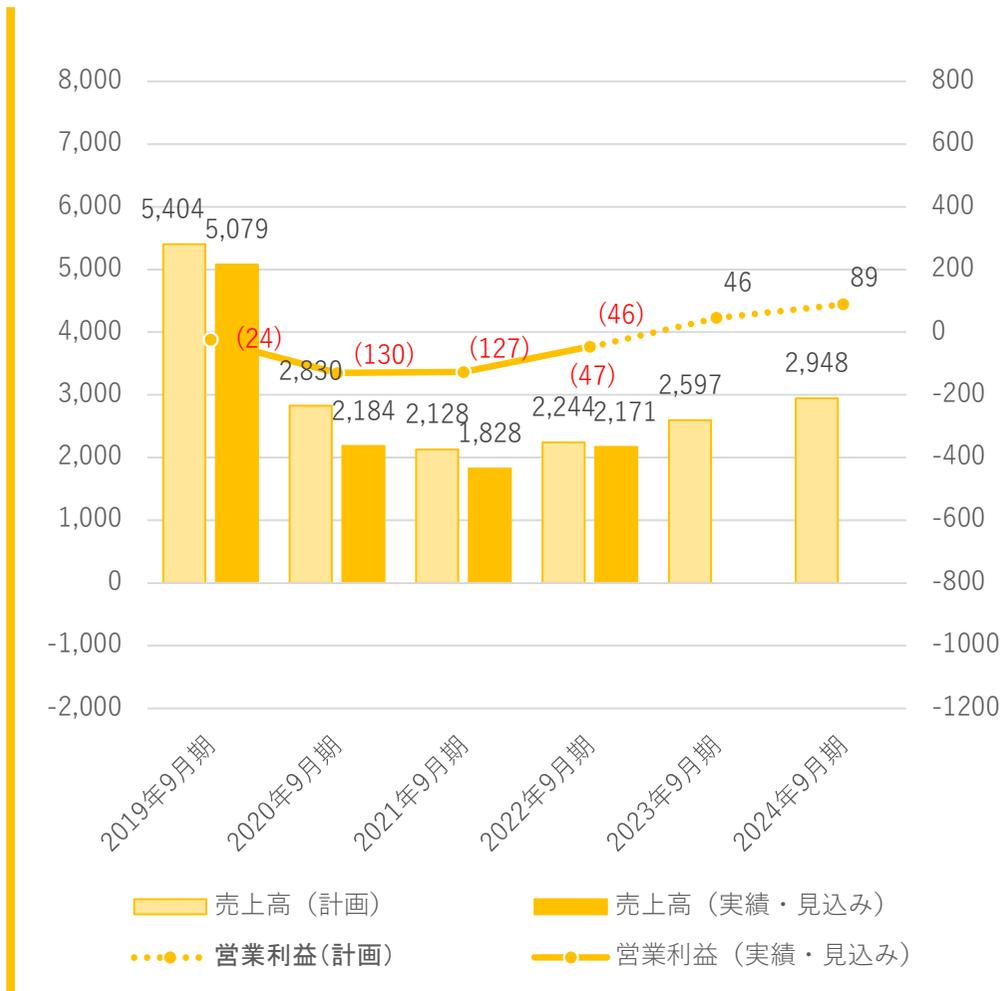
9

3

12

ほぼ計画通り推移、対前年増収増益着地の見通し
次年度は営業利益で黒転へ

予実推移（単位：百万円）



市場環境の変化

- スチュワード事業と同様に、従業員食堂事業、朝食レストラン共に**稼働は復調**トレンド
- **宿泊特化型新規ホテルの開業が堅調**、特に外資の旺盛な出店意欲に対応して引き合い増
- **食材のグローバル調達環境、エネルギー・輸送コスト上昇**などによる**コストアップ影響が大**
- **ESG課題に対するソリューションサポート**として、フードロスへの対応**ニーズが増加**

取り組み状況

- **コストモニタリング**の徹底と並行して、料理**単価の値上げ**改定交渉や**最低時給改定**への対応
- **フードロス**に対する**啓蒙活動**や**フードシェアリング**サービスの対応の推進

顧客ニーズに合わせた「食」と「衛生」の総合提案力により、幅広い分野での受注を獲得

コンフォートスイーツ東京ベイ 朝食レストラン



舞浜地区となる当ホテルの朝食レストランでは、**キッズコーナーが大人気**。お子様の目線に合わせた低めのカウンターや自分だけの特別スイーツが作れるトッピングエリアなど大人も子供も楽しめるメニューを提案いたしました。

大手ゼネコン建設現場 従業員食堂



世界最大規模となる半導体**工場の建設現場の食堂運営を受注**。外国人従業員向けのソウルフードやヴィーガンメニューなど多彩なメニューを提供しています。

空間プロデュース事業の進捗

厳しい状況が続き、対前年減収減益の見通し
機会／脅威を精査して、収益確保へ

予実推移（単位：百万円）



市場環境の変化

- **コロナ禍**を原因とするライブ・イベントシーンなどの音響機器**需要は復調**
- コロナ禍や不安定な世界情勢、コスト高などに起因した**投資意欲の冷え込み影響大**
- 半導体不足による**商品調達納期の不透明感**が強く、受注残は積み上がる状況
- 円安進行や運送費アップによる**輸入品調達コストアップ**

取り組み状況

- コロナ収束に伴う営業活動および展示会などの**販促施策の強化**
- 調達可能な**代替商品**による**提案・設計変更、納品**
- **為替予約**による価格の安定化
- コストアップの商品**価格への転嫁**
- **新たな環境脅威**を踏まえ、成長スピードを加速する**戦略を抜本的に議論**

新たな商材の獲得や積極的な提案により多様化する顧客ニーズに対応

再開された展示会へ積極的に出展



西日本、九州地区において**最大規模の展示会などへ積極的に出展**。顧客に向けた新商材のデモンストラーションや技術面でのセミナーを実施し、販路の拡大に努めました。

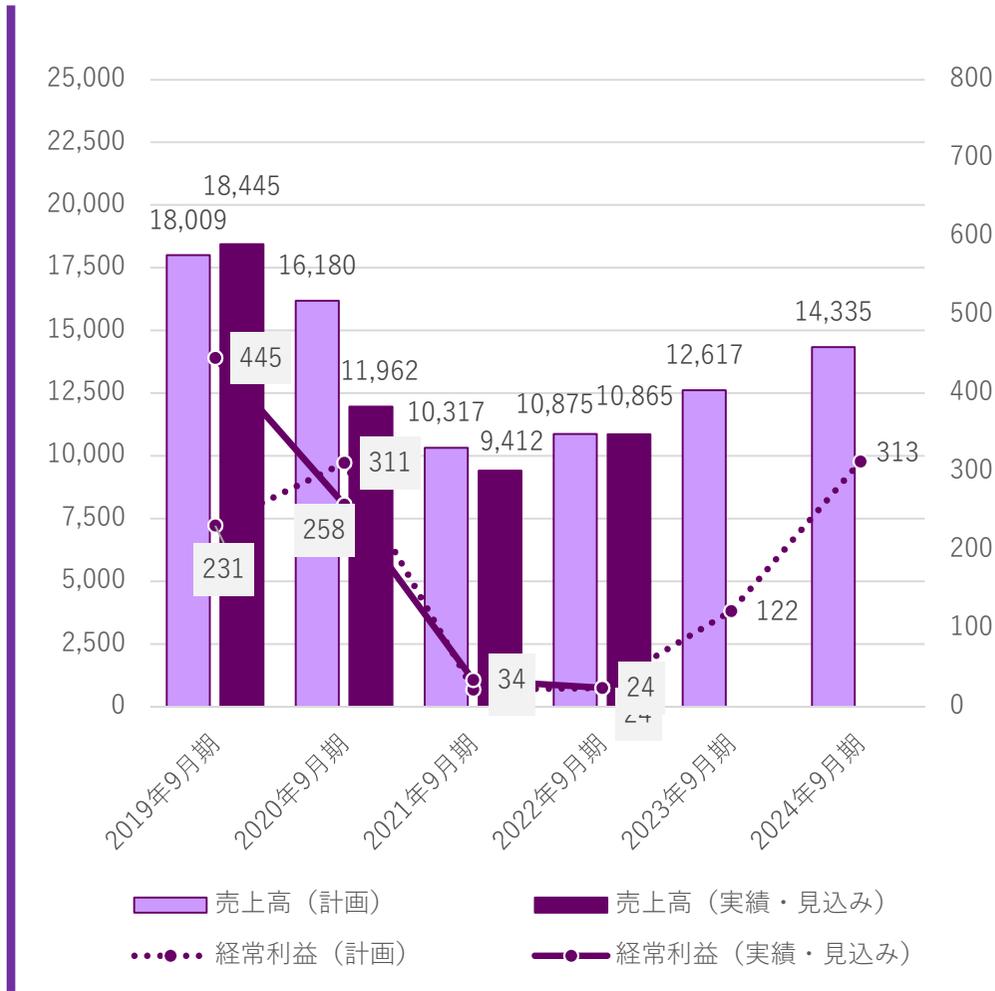
ウェビナーシステムの提供開始



10月より新たなウェビナー向けワンストップ配信システム「admintV Webinar」の取り扱いを開始、**ウィズコロナにおけるCRMやエデュケーションのニーズ深化に対して高い拡張性で対応**し新規顧客獲得を目指します。

FY2022-24中計初年度計画達成の見通し 次年度以降の目標をブラッシュアップへ

予実推移（単位：百万円）



次年度予算策定と並行して、
新経営体制において改めて中計を再構築

コロナは日常となりafterは来ない
環境は一変しWithコロナでは物足りない
コロナを**Beyond**したビジョンへ
コロナ前の収益水準をベンチマーク



配当予想を修正

2022年9月期 上場20周年を記念して1株当たり10円の記念配当を実施

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前回予想 (2021年11月15日公表)	—	5.00円	5.00円
今回修正予想	—	15.00円 (普通配当5.00円) (記念配当10.00円)	15.00円 (普通配当5.00円) (記念配当10.00円)
今期実績	0.00円	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年9月期)	0.00円	5.00円	5.00円

期末普通配当5円に記念配当10円を加え合計15円の配当を予定

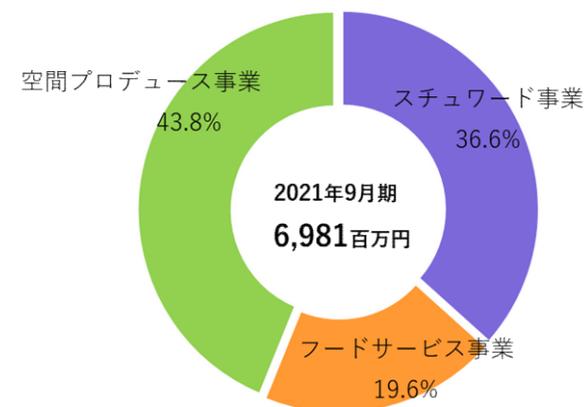
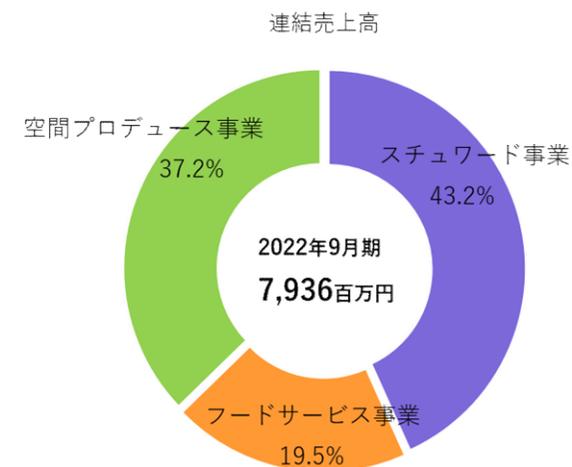
- ▶ 当社サービスに対する需要に回復感
- ▶ 当期純利益は計画通りに推移
- ▶ 新体制のもと経営計画のブラッシュアップ推進中
- ▶ 次期以降は普通配当の水準を向上、安定配当を継続

連結 損益計算書 概要

(単位：百万円)	2021年9月期 第3四半期	2022年9月期 第3四半期	差 異
売上高	6,981	7,936	954
営業利益	▲ 593	▲ 183	410
経常利益	▲ 26	52	79
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 199	66	266
1株あたり当期純利益(円)	▲ 39.48	13.40	52.88

(単位：百万円)	2022年9月期第3四半期		差 異
	計画値	当 期	
売上高	7,849	7,936	87
営業利益	▲ 224	▲ 183	41
経常利益	▲ 26	52	78
1株あたり当期純利益(円)	▲ 8.73	13.40	22.13

前年同期差異



■ 経常利益

前期比 +79百万円

- 営業利益の増加 +410百万円
- 営業外収益 -296百万円
新型コロナウイルス関連助成金・補助・給付金等
- 営業外費用 +34百万円
シンジケートローン再組成他

連結 貸借対照表

(単位：百万円)	前連結会計年度 2021年9月30日	当第3四半期 期末 2022年6月30日	差 異
資産合計	4,701	4,981	280
流動資産	2,543	2,818	274
固定資産	2,158	2,163	5
負債合計	2,576	2,846	269
流動負債	1,668	2,397	728
固定負債	908	449	-459
純資産合計	2,124	2,135	10
株主資本	2,047	2,059	12
その他の包括利益累計額	77	75	-1
負債・純資産合計	4,701	4,981	280
自己資本比率	45.2%	42.9%	-2.3P

主な差異要因

■ 資産



■ 負債・純資産



■ 資産 +280百万円

- 現金及び預金の増加 + 253百万円
- 商品及び製品の増加 + 105百万円
- 有形固定資産の減少 - 32百万円

■ 負債 +269百万円

- 未払金の増加 + 124百万円
- その他流動負債の増加 + 253百万円
- 長期借入金の返済 - 55百万円
小伝馬町本社ビル購入の借入を完済

■ 純資産 +10百万円

- 当期純利益 + 66百万円
- セントラルホテルサービスの連結加入による
子会社利益剰余金の減少 - 31百万円

グループ理念

私たちCSSグループは、
「質の高い”おもてなし”の創造」を理念とし、
「最高の”おもてなし”」を実現するための「最適なサービス」を提供いたします。

成功体験と価値観の共有『Go Beyond!』

02 音楽情報株式会社 マーケティング部/ 土屋 宏人さん/ 松井 友樹さん

音楽情報株式会社は、音楽業界の発展を促進するために、アーティストや音楽関係者へのサポートを提供しています。マーケティング部では、アーティストの活動を広げ、ファンを獲得するための戦略を立案・実行しています。



音楽情報株式会社は、音楽業界の発展を促進するために、アーティストや音楽関係者へのサポートを提供しています。マーケティング部では、アーティストの活動を広げ、ファンを獲得するための戦略を立案・実行しています。

03 株式会社センダン

株式会社センダンは、食の文化を大切にし、お客様に最高のサービスを提供することを目指しています。スタッフは、お客様とのコミュニケーションを大切にし、笑顔で接客しています。



株式会社センダンは、食の文化を大切にし、お客様に最高のサービスを提供することを目指しています。スタッフは、お客様とのコミュニケーションを大切にし、笑顔で接客しています。

Go Beyond!

Go Beyond! is a concept that encourages employees to go beyond their current roles and strive for excellence. It is a mindset that drives innovation and growth.



Go Beyond! is a concept that encourages employees to go beyond their current roles and strive for excellence. It is a mindset that drives innovation and growth.

Success stories and testimonials from employees and customers. These stories highlight the company's commitment to quality and service, and the positive impact of the Go Beyond! mindset.



Success stories and testimonials from employees and customers. These stories highlight the company's commitment to quality and service, and the positive impact of the Go Beyond! mindset.

■サステナブルメニューで受賞



ザ ロイヤルパークホテル
広島リバーサイド

ザ ロイヤルパークホテル
京都梅小路

本年3月に開催されたロイヤルパークホテルズ朝食コンテストにて、当社フードサービス事業が運営する2ヶ所のレストランメニューが受賞いたしました。

受賞メニューはどちらも**サステナブル**を意識し、**地元食材やアウトレット食材**を使用したポトフや、「食べたい量だけ=残さない」を実現する**お客様自身でトッピングできるハンバーガー**を考案し、食品ロス削減、環境保全に貢献しております。



■無洗米使用の推進



フードサービス事業で運営するレストランや食堂において、**無洗米使用を推進**しています。

無洗米を使用することにより、**業務効率の向上**だけでなく、**水の使用量や汚水の排水量、CO2排出量削減**が可能となります。今後も環境への配慮を意識した事業活動を行うべく、より多くの事業所で無洗米を導入してまいります。

■リサイクルユニフォームの導入を検討



スチュワード事業では、環境に配慮したユニフォームを製造、回収を行う企業に賛同し、業務で着用し不要になった**ユニフォームを廃棄せず再資源化**を目的とし回収業者へ送付しています。今後、清掃部門においては、**リサイクルユニフォームの着用推進を検討**しており、廃棄によるCO2削減だけでなく、衣料品に使われる**石油資源(ポリエステル樹脂)の使用量の削減**にも貢献してまいります。

■永年勤続者表彰を実施



多くのパート・アルバイト従業員が在籍するスチュワード事業、フードサービス事業では、毎年10年以上、20年以上勤務する従業員に対して、これまでの**頑張りを称え感謝の気持ち**を伝える**表彰**を行っています。

2022年度は全国で**110名のスタッフ**が表彰されました。

雇用形態に関わらず、誰もが**働きやすい、働き甲斐の持てる環境**を作る取り組みを今後も継続してまいります。

- 本資料は当社の2022年9月期第3四半期業績および経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません
- 本資料に記載されている業績見通し等の意見や予測は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります
- 本資料の著作権を含む一切の権利は株式会社CSSホールディングスに帰属します

お問い合わせ

株式会社CSSホールディングス 経営企画室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail hld-info@css-ltd.co.jp

